

# 目標達成に向けた重点プロジェクト

- 脱炭素社会の実現に向けては、市内のあらゆる主体による、さまざまな形態の再生可能エネルギーの導入拡大が期待されます。
- 地域の特性や再生可能エネルギーのポテンシャルを活かし、地域のさまざまな主体が、さまざまな資源を活用して、連携・協力しながら再生可能エネルギーの導入拡大を実現していくことを目指し、以下の5つの視点で6つの重点プロジェクトを推進していきます。
- また、今後、これらのプロジェクトをもとに、地域脱炭素化促進事業や脱炭素先行地域の取組の具体化についても検討を進めていきます。

- ①商用化・普及段階の技術・サービスの導入により、短・中期的な実現を目指す
- ②建築物や住宅設置以外のこれまで活用されていない土地等の有効活用を図る
- ③一次産業等との組み合わせや、地域エネルギー事業としての実施により地域への収益還元を図る
- ④地域の豊富な資源を最大限に活かすため、中・長期的な導入も見据え、地域の理解醸成を図りつつ、地域貢献度の高い事業の実施を図る
- ⑤災害時のレジリエンス強化、その他社会的な意義(快適な暮らし、教育、観光、地域活性化等)にも貢献する

## 重点プロジェクト

プロジェクト①	家庭・事業所での太陽光発電による自家消費拡大	短・中期
(1) PPA 等による初期投資なしの太陽光発電・蓄電池の導入促進		
(2) 家庭への太陽光発電・蓄電池設置助成		
(3) ZEB・ZEH、EV・V2H 等の導入促進		
プロジェクト②	公共施設における再エネ地産地消拡大	短・中期
(1) 公共施設での PPA 等による太陽光発電・蓄電池の導入		
(2) EV 公用車の導入拡大及び公共施設での V2X 活用型太陽光自家消費		
(3) 廃棄物エネルギーの活用		
プロジェクト③	地域共生型再エネ導入支援	短・中期
(1) 再生可能エネルギーゾーンを通じた地域脱炭素化促進事業・促進区域の検討		
(2) 農業における再エネ活用やスマート農業の促進		
(3) 未利用地への地域活用型太陽光発電導入		
(4) 小水力発電開発検討		
(5) 陸上風力発電の促進		
(6) 地域マイクログリッドの構築検討		
プロジェクト④	木質バイオマス熱電供給と持続可能な森林・林業育成支援	短・中・長期
(1) 木質バイオマス地産地消モデルの検討		
プロジェクト⑤	海洋再生可能エネルギー及び次世代エネルギー検討	中・長期
(1) 波力発電の実装化と電力の地産地消による地域活性化		
(2) カーボンニュートラルポートの構築検討		
(3) 洋上風力促進区域の形成検討		
(4) 釜石版ブルーカーボン・オフセット制度の創設と運用		
プロジェクト⑥	地域を主体とする総合的エネルギー事業の検討	短・中期
(1) 官民連携で行う地域エネルギー事業の在り方の検討		
(2) 再エネ電力調達・地産地消の推進		

# 釜石市

概要版

# 再生可能エネルギービジョン

地域のエネルギーを活力とした  
「豊か・便利・安心」なまち かまいし

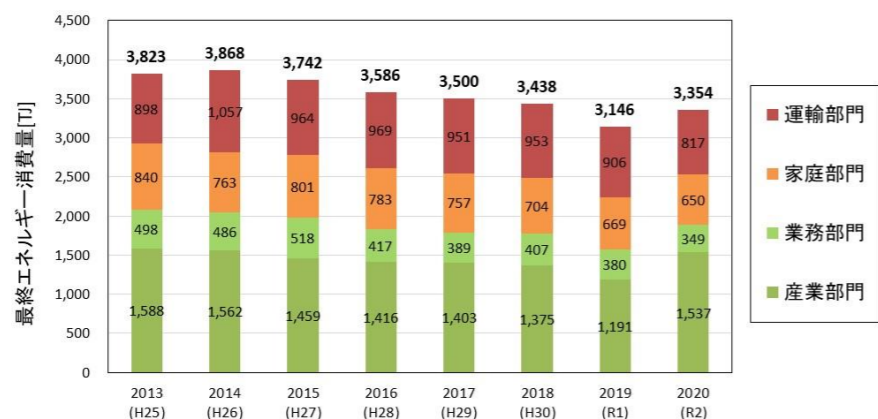


# 「釜石市再生可能エネルギービジョン」策定の背景

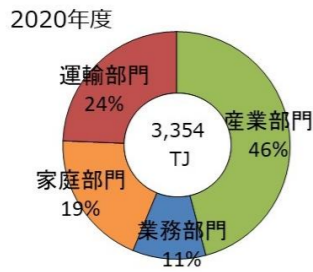
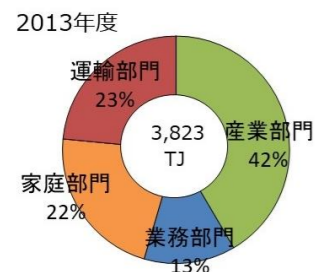
- 日本の平均気温は、100年当たり1.30℃上昇しており、岩手県内でも同様の傾向が見られます。今後、地球温暖化の進行に伴い、猛暑や豪雨等、さまざまな気候変動によるリスクはさらに高まることが予測されており、気候変動への対策はまったなしの状況です。
- 釜石市では、エネルギーを自分たちでつくる災害に強いまちとして、また、環境にも配慮した持続可能な地域となることを目指し、環境未来都市に選定され、スマートコミュニティ基本計画の策定、地域に根ざしたスマートコミュニティ事業の構築に取り組んできました。
- 釜石市は、木質バイオマス混焼、大規模陸上風力発電をはじめとし、多様なエネルギーの供給拠点となっています。今後、地域のエネルギー資源をさらに活用することで新たな価値を生みだし、市外から購入する化石燃料を減らすことで、地域経済の循環が生まれることが期待されます。
- 「釜石市再生可能エネルギービジョン」は、市全域において再生可能エネルギーの利活用の拡大を図り、地域の持続可能な発展に取り組んでいくためのものです。目指すべき将来像や具体的な重点プロジェクトを整理し、市のエネルギー行政の指針となるとともに、市民、事業者の皆さんの取組のきっかけとして活用していただくものです。

## 釜石市エネルギー消費量の現況

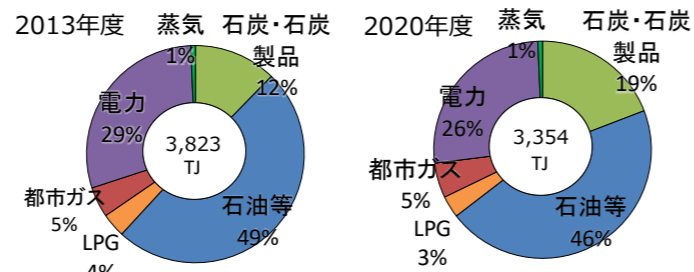
- 2020(令和 2)年度のエネルギー消費量は 3,354TJ であり、2013(平成 25)年度比で 12.3%減となっています。経年でみると、新型コロナウイルス禍等の影響で増減がありますが概ね減少傾向にあります。
- 2020(令和 2)年度のエネルギー消費量の部門別構成比では、産業部門が全体の 46%、次いで運輸部門が 24%となっており、産業部門のエネルギー消費量が特に大きくなっています。また、燃料種別のエネルギー消費量の構成比では、石油等が 46%、電力が 26%、石炭・石炭製品が 19%の順となっています。



<エネルギー消費量の推移>



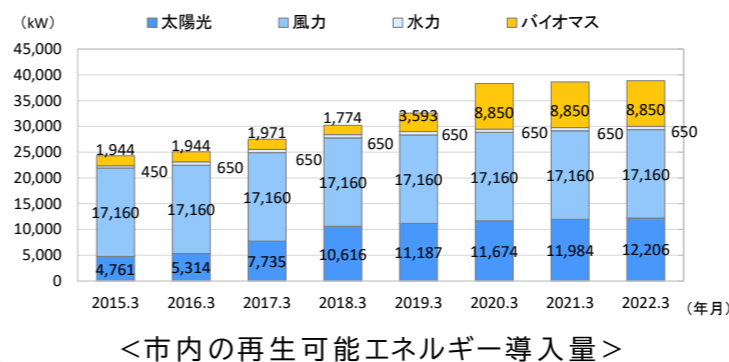
<エネルギー消費量の内訳(部門別)>



<エネルギー消費量の内訳(エネルギー種別)>

# 釜石市の再生可能エネルギーの導入状況と利用可能量

- 市内に導入された再生可能エネルギー発電設備は、太陽光発電、風力発電、中小水力発電及びバイオマス発電(廃棄物・木質バイオマス石炭混焼)です。また、波力発電の実証試験が行われるなど、多様な再生可能エネルギーの活用が図られています。
- 導入量は、陸上風力発電が最も多く、年々、太陽光発電を中心に増加しています。



- 市内には、太陽光や風力をはじめとする多様なエネルギーのポテンシャルがあることが示されています。
- 今後、このポテンシャルを踏まえるとともに、地産地消の仕組みづくりや、電力システムの制約への対応等の市内外の動向や影響を踏まえて導入を進めていく必要があります。



## 目指すべき将来像と再エネ導入目標

- 「釜石市再生可能エネルギービジョン」では、化石燃料に依存せず、エネルギーを使用するためのコストが市内で循環し、豊かな自然環境や日々の暮らしを維持しつつ、地域産業の持続可能な発展や地域活力の創造につなげ、再生可能エネルギーを暮らしの中で便利に利用でき、防災機能の向上も実現するまちを目指し、以下の将来像を定めます。

地域のエネルギーを活力とした「豊か・便利・安心」なまち かまいし

- 2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向けて、再生可能エネルギーを導入目標として掲げます。
- 2030(令和 12)年の導入目標は 119,626kW、2050(令和 32)年の導入目標は 357,880kW となっています。
- 目標値は目標年度までに導入されている累積量としています。

